

学習評価の進め方ワークシート (外国語)

【学習評価の進め方ワークシート】の使い方

学習指導要領の改訂に伴い、評価の観点が増え、3 観点に整理されたことに加え、単元や内容のまとまりにおける評価が一層重視されるようになったことで、学校現場ではどのように生徒を評価したらよいか迷われている先生方もいらっしゃると思います。


そこで、具体的に単元の評価規準を作成したり指導計画を立てたりすることで、新しい評価における理解を深めていただくことを目的とした「学習評価の進め方ワークシート」を作成しました。

右に示した「新学習指導要領における学習評価の在り方」の資料や文部科学省国立教育政策研究所から公表された「※指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(以下「参考資料」)等を基に、以下のワークシートの手順に従い、一単元の評価を実施してみてください。

※「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidouairyout.html>)国立教育政策研究所

新学習指導要領における
学習評価の在り方

中学校外国語



1 単元における学習評価の進め方
単元における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、以下のように進めることが考えられる。

1	単元の目標を作成する	・①、②については、学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説、生徒の実態、前単元までの学習状況等を踏まえる。 ・③については、①、②を踏まえ、評価場面や評価方法を計画する。 ・どのような評価資料を基に、「おおむね満足できる」状況(B)と評価するかを考慮したり、「努力を要する」状況(C)への手立て等を考えたりする。 ・④に沿って観点別学習状況の評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。 ・⑤については、集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的评价(A、B、C)を行う。
2	単元の評価規準を作成する	
3	「指導と評価の計画」を作成する	
4	授業を行う	
5	観点ごとに総括する	

2 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成方法
Step1 【学年ごとの目標及び評価規準の設定】

- 各学校においては、「教科の目標」及び「領域別の目標」に基づき、各学校における生徒の発達段階と実情を踏まえ、「学年ごとの目標」を適切に定める。
- 五つの領域別の「学年ごとの目標」に対応する評価規準は、「内容のまとまり(五つの領域)ごとの評価規準」を踏まえて、三観点で記述する。

()年 単元名 ()



1 単元の目標を作成する

<単元の目標> 学習指導要領を基に、各単元で取り扱う事柄や、言語材料、単元を中心とする言語活動の中で設定するコミュニケーションを行う目的や場面、状況等に即して設定する。

2 単元の評価規準を作成する

単元の評価規準の作成のポイント(参考資料 P38~42)等を参考に、各単元で取り扱う事柄や、言語材料、単元を中心とする言語活動の中で設定するコミュニケーションを行う目的や場面、状況等に即して作成する。

<単元の評価規準> () ※ ()には領域を記入する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

3 「指導と評価の計画」を作成する

評価規準の内容を最も評価できる場面で、適切な評価方法を考えましょう。また、枠が足りないときは、同様の形式を作成して、なるべく詳しい計画を立ててみましょう。



時間	ねらい (■)・主な言語活動等 (丸数字)	知	思	態	備考

授業を行う



生徒への学習状況のフィードバックや授業改善に生かす機能を一層充実させることが大切です。

4 観点ごとに総括する

評価の観点ごとの総括及び評定への総括の考え方や方法について、教師間で共通理解を図り、生徒や保護者に説明し理解を得ましょう。



(例1) 評価結果の a、b、c を数値に置き換えて総括する場合

a	b	c
3点	2点	1点

総括の結果を B とする範囲を $[2.5 \geq \text{平均値} \geq 1.5]$ とする。

学習活動	1	2	3	4	5	6	総括	単元の評価
知識・技能								
思考・判断・表現								
主体的に学習に取り組む態度								

(例2) 評価の結果の a、b、c の数を基に総括する場合

「a、b」のように数が同数の場合や「a、b、c」のように混在する場合は、あらかじめ総括の仕方を決めておくことが必要です。

学習活動	1	2	3	4	5	6	単元の評価
知識・技能							
思考・判断・表現							
主体的に学習に取り組む態度							